

花瓶山の希少植生等の保全に係る現地検討会を開催

令和7年10月17日

林野庁

関東森林管理局

茨城森林管理署

茨城県大子町にある花瓶山希少個体群保護林において、希少な自然植生等の保護や保全対策の充実等を目的として現地検討会を開催しました。

1. 概要

大子町にある花瓶山には、ブナやミズナラの林にイヌブナが混生する貴重な天然林があり、国有林ではこのうち約12haを花瓶山希少個体群保護林として保護しています。こうした中で、八溝山地域ではニホンジカの生息拡大が懸念されており、希少な自然植生等の保全が喫緊の課題となっています。

このため茨城森林管理署では、花瓶山希少個体群保護林（写真①）において、獣害防護柵を試行的に設置し、対象区域とあわせニホンジカ等野生鳥獣による食圧の推移を把握することとした。

また、茨城県内では自然植生の保全を図る獣害防護柵の設置事例が少ないとから、保全対策の実演と保全対策について意見交換等を実施し、知見を関係機関で共有しました。



① 花瓶山希少個体群保護林

2. 関係機関の参加状況

10月17日に行われた現地検討会は、茨城県や各市町、林業事業体から20名、森林総研から2名、農政局茨城拠点から4名、関東森林管理局及び管理署から21名の計47名が参加して行われました。

3. 実施内容

検討会会場の既に設置済みの獣害防護柵個所（写真②）へ移動し、奥村総括森林整備官より保護林内の希少種の詳細及び獣害防護柵の設置について説明すると共に、資材製造業者による実演を見学しました。

午後は、未設置個所（写真③④）へ移動し、設置体験を希望した参加者と共に実際に設置作業を体験しました。

実際の設置では、森林内の傾斜のある場所で、10kgの打込み器具を用いて支柱を立てる作業や鉄網を取り付ける作業を、参加者の皆さんにも体験していただきました。

質疑応答（写真⑤）では、「現地までの運搬についての大変さ」「設置にかかった労働人工はどのくらいか」「破損した際の修理の方法」「出来ることならシカの被害が広がらず、こうした作業をしなくて済むなら良い」等の活発な意見交換となりました。



② 現地においての説明



③ 設置体験の様子



④ 設置体験の様子



⑤ 意見交換の様子

4. 今後の取組方針

以下の対策を実施し、保全対策の充実を図ることとしています。

- ・獣害防護柵の設置後、2か月に一度程度の定期的な巡視を行い、柵状況及び柵外部の採食圧による植生変化を確認する。
- ・センサーカメラを用いた定点観測、瞬間サンプリング法によるシカ生息密度調査を継続し、保護林周辺の頭数推移を把握する。
- ・対策とその効果を分析し、他の保護林や民有林での活用も含め、保全対策の充実を図る。

お問い合わせ

関東森林管理局 茨城森林管理署 総括森林整備官 奥村 忠充

〒310-0852 茨城県水戸市笠原町978番7

TEL : 029-243-7211 e-mail : ks_ibaraki_postmaster@maff.go.jp